

＜東大見学会 感想文＞

私たちは、まず始めに、ディレクトフォースを行うために、笹川平和財団の国際会議場を訪問しました。会場に入った瞬間、空気の違いを感じました。世界を相手にする場所は、雰囲気さえも違うのだなと思いました。主催者の菅井様の挨拶のあと、前 IEA 事務局長の田中伸男様の講演を拝聴しました。私は、IEA という言葉は聞いたことがありましたが、どういう機関なのかあまり知りませんでした。ですから、この講演で、IEA が世界や私たちの生活に及ぼす影響力の大きさや、将来を見据えて活動していることなどを知り、とても驚きました。そして、世界のエネルギー事業の中心となる IEA で、アジア人初の事務局長となられ、活躍された田中様からご講演していただくという、一生に一度あるかないかのような貴重な体験をさせていただいた私たちは、とても恵まれているなと思いました。田中様のご講演のあとは、笹川平和財団・日本財団の方々や、ディレクトフォースの方々からお話を伺いました。私たちは、4名の方々からお話を伺いました。その4名の方々は、世界を相手にして活動されているということは共通していらっしゃるのですが、活動されている分野は一人一人が異なっていってしまったので、私たちが普段聞くことができないような貴重なお話まで伺うことができ、とても勉強になりました。その中でも特に印象に残った言葉が、「東大よりハーバード」という言葉と、「相手の土俵に立って考える」という言葉です。「東大よりハーバード」というのは、世界で活躍する経営者になるには、大学で世界の将来の経営者たちと友達になった方がいいという意味で、私はこの言葉で、今までの自分の視野がいかに狭かったかを思い知らされました。私は、ずっと日本だけで活躍することだけを考え、自分の可能性に制限をかけていました。ですから、これからは世界にまで視野を広げ、自分の可能性をさらに広げたいと思いました。「相手の土俵に立って考える」というのは、海外で研究したり、働いたりした経験がある方々が外国人とのコミュニケーションの際に必要なこととおっしゃっていた言葉です。これは、外国人に限らず日本人に対するコミュニケーションの際にも必要なことだとは思いますが、私はよく興奮したり、ショックを受けたりすると、冷静になれず、自分中心で意見を述べてしまうことが多いので、この言葉を大切にしようと思いました。

ディレクトフォースのあと、私たちは国立がん研究センターを訪問しました。

私たちの班は、将来なりたい職業の第一志望が医師、第二志望が薬剤師の人たちで結成された班なので、がんに対する治療法や治療薬の研究を行っている国立がん研究センターは、自分たちにとってとても参考になる場所だと思い、国立がん研究センターへの訪問を希望しました。訪問先では、まず始めに先生方が私たちの訪問のために制作して下さったパワーポイントを拝見しました。内容は、先生方一人一人の生い立ちや研究内容をまとめたもので、私は専門的で難しいことばかり説明されると思っていたので、少し驚きました。しかし、そのパワーポイントのおかげで、私は自分の夢を再発見することができました。私は、昔から医師になって誰かを助けたいという夢を持ち続けていましたが、最近では医師になるということよりもいい大学の医学部に現役で入ることを優先し、思い詰めていました。ですから、このパワーポイントで、一人一人の出身大学や学部、診療科などが異なっても、先生方は同じ研究室でがんの患者さんを救いたいという同じ夢を持って日々研究されていることを知り、少し気持ちが楽になりました。もちろん、いい大学に入ることも大切だとは思いますが、それよりも自分がやりがいを感じられる仕事や興味のある仕事を見つけ、そこで自分を発揮することの方が大切なかもしれないと思いました。また、先生方の研究は、若年性乳がんの解析や、長く抗がん剤が効く原因となる遺伝子の研究など、遺伝子レベルで行われているということも知りました。その中でも特に印象に残ったのが、がんの治療が「オーダーメイド」になるということです。これは、がんの個別化治療のことで、

5割以上の方ががんが小さくなるという非常に効果が大きい治療方法だそうです。しかし、すべての人に個別化治療を施すことができなかつたり、個別化治療する原因がないとできなかつたりと、デメリットもあるそうなので、それらを減らすことが今の日本の課題なのかなと思いました。パワーポイントを拝見したあとは、先生方の研究室を拝見しました。研究で使用している道具や材料を見せていただきましたが、それらは以前に拝見したことがあったので、そこまで驚いたりはしませんでした。しかし、次に見せていただいたP2レベルの実験室は拝見するのは初めてだったので、わくわくしました。実験室自体はそこまで広くないのですが、見慣れない薬品や機材がたくさんあって非常に驚きました。そして、長いときは8時間くらい研究されるということを知り、研究員になるには人並み以上の集中力が必要なのだなと思いました。

1日目の夜に行われた二高OB・OGとの懇談会もとても勉強になりました。

私の中では、東大生はずっと勉強ばかりしているガリ勉だというイメージがありました。しかし、実際にお会いすると、とても明るく面白い方々ばかりで、私のイメージとは全く違っていたので、びっくりしました。懇談会は質問形式で行われ、部活や通っていた塾、テストの順位、勉強方法、使用していた問題集など、様々なお話を伺うことができました。その中でも特に印象に残った言葉が、「社会を感じる」という言葉です。これは東大に来てよかったと思うこととしておっしゃっていた言葉で、東京は日本の中心なので、東京に来ると社会を身近に感じることができ、自分の視野や世界が広がるそうです。私はずっと、地元の大学に入ることを重視していたので、その視点を変え、東京や西日本の方にも注目してみようかなと思いました。

今回の東大見学会で、私は主に2つのことについて学びました。

1つ目は、視野を広く持つということです。これは、ディレクトフォースと二高OB・OGとの懇談会のときに強く感じました。私は今まで、将来は地元の大学に入り、安定した生活ができればいいと思っていました。確かにそれも充実した生活を送る一つの方法ではありますが、それだとずっと同じ世界にとどまることになってしまい、自分自身がいつまでも成長することができないということに気がつきました。ですから、あらゆる可能性が広がっている今だからこそ、地元だけではなく、日本、そして世界にまで視野を広げ、さまざまなことを学び、体験するということが大切なのかなと思いました。

2つ目は、自分の夢を忘れないということです。これは、国立がん研究センターへ訪問したときに強く感じました。自分の夢を忘れてしまっていたら、どんなに勉強してもあまり意味がないと思うので、自分の夢をしっかりもって、日々の勉強や高校生活に精進したいと思いました。

最後に、今回の東大見学会に携わっていただいた笹川平和財団・日本財団の方々、ディレクトフォースの方々、国立がん研究センターの方々、二高OB・OGの方々、東京大学の方々など、すべての方々に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。